

A

入院による環境の変化について

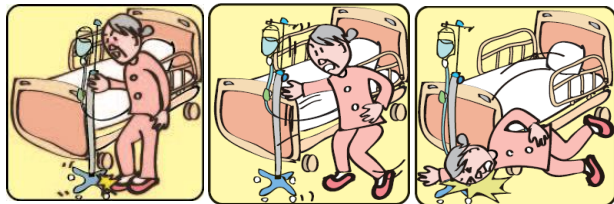


足利赤十字病院

日本赤十字社

自宅での生活と入院生活にはさまざまな違いがあり、転倒などの事故を起こす危険性があります。

- 点滴台に足を引っ掛け、点滴台がすべり出し転倒する



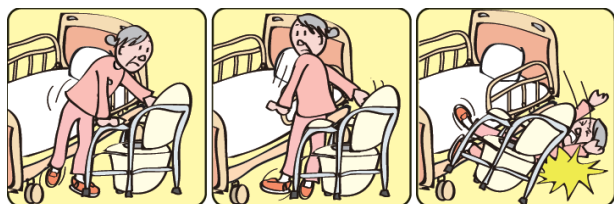
- スリッパが滑り、あるいはつまずいて転倒する



- 薬や睡眠安定剤の影響でもうろうとして転倒する



- ポータブルトイレに一人で移動しようとして転倒する



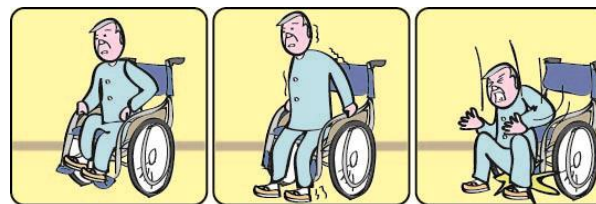
- ベッドから、一人で立ち上がろうとして転倒や転落する



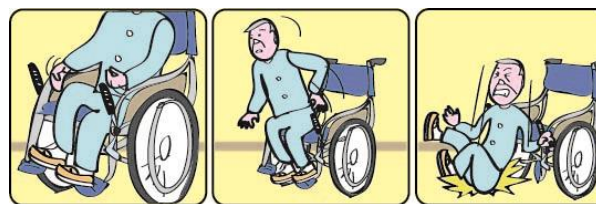
- 手をついたオーバーテーブルが動き出して転倒する



- 立ち上がろうとしてバランスを崩し転倒する



- ブレーキをかけ忘れ、後ろ向きに転倒する



B

入院による環境の変化について



足利赤十字病院

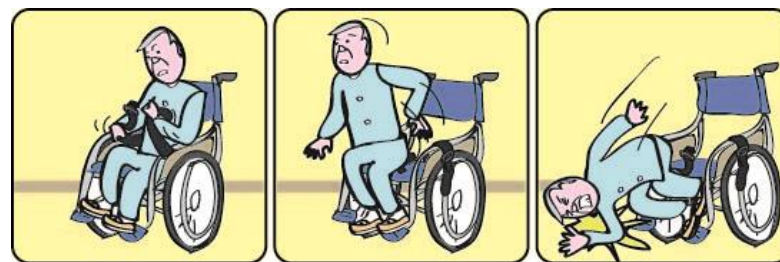
日本赤十字社

慣れない入院生活や高齢などの理由から、「不穏状態」となる場合があります。
安全な治療のためにご家族のご理解とご協力が必要です。

●急にベッド上に立ち上がり、ふらついて転落する



●安全ベルトを外して立ち上がり転倒する



●ベッド柵を外して転落する



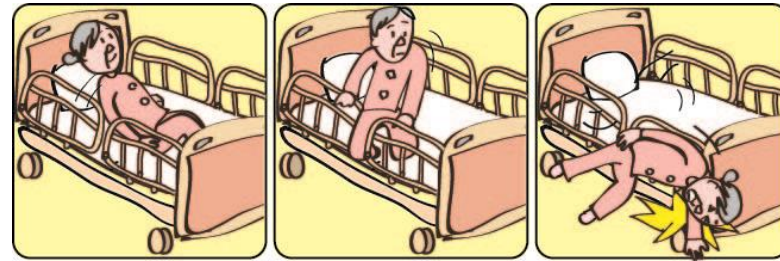
●不穏、興奮が強くベッドから転落する



●抑制類を外してベッドから転落する



●ベッドから離床しようとして転倒する



C 〈ご家族の方へ〉 小さなお子様の入院について

入院されるお子様はご家族が離れることにより、治療に非常に不安を持ちます。
ベッドを遊び場とされたり、ご家族と一緒にいる時にも転倒されることがあります。

● 柵を下ろしたまま、目を離した隙に転落する



● おもちゃを拾おうとのりだし転落する



● 親がベッドから降りようと柵を下ろした隙に転落する



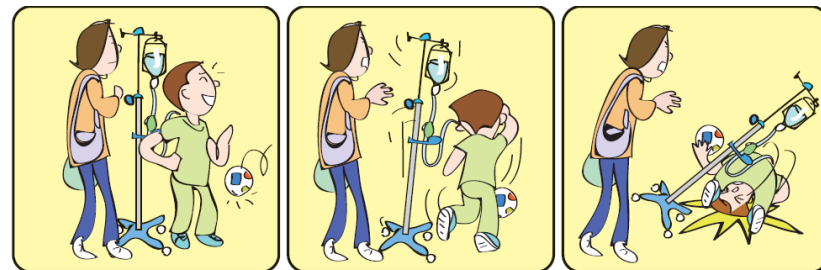
● おもちゃを踏み台にのりだし転落する



● 固定の悪い柵にもたれかかり、柵と一緒に転落する



● 走り出して点滴台といっしょに転倒する



D

リハビリ期の患者様とご家族の皆様へ



足利赤十字病院

回復期や退院に向けた自立促進の上で、ベッドからの離床動作、車いすの利用、トイレの利用等で転倒・転落の危険があります。

●手をついたオーバーテーブルが動き出して転倒する



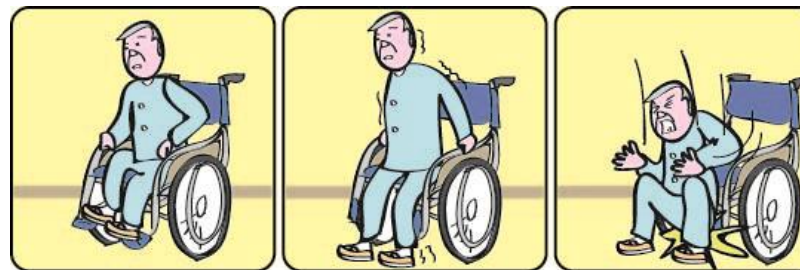
●ブレーキをかけ忘れ、____転倒する



●歩行器で歩き始めようとしてバランスを崩して転落する



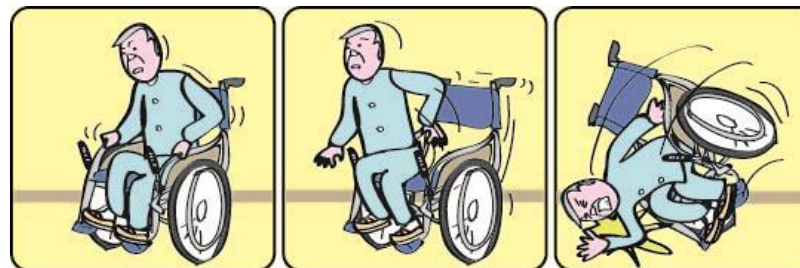
●立ち上がろうとしてバランスを崩し転倒する



●トイレで、一人で立ち上がろうとして転倒____する。



●フットレストに足をおいて立ち上がり転倒する



手術後は麻酔などで意識がもうろうとしていたり、不穏やせん妄などにより、思わぬ行動に出ることがあります。特に点滴等のチューブ類を抜く自己抜去は治療や回復の進行を遅らせ大変危険です。

モニター

呼吸、心臓の動きなどをモニターする装置です

酸素マスク

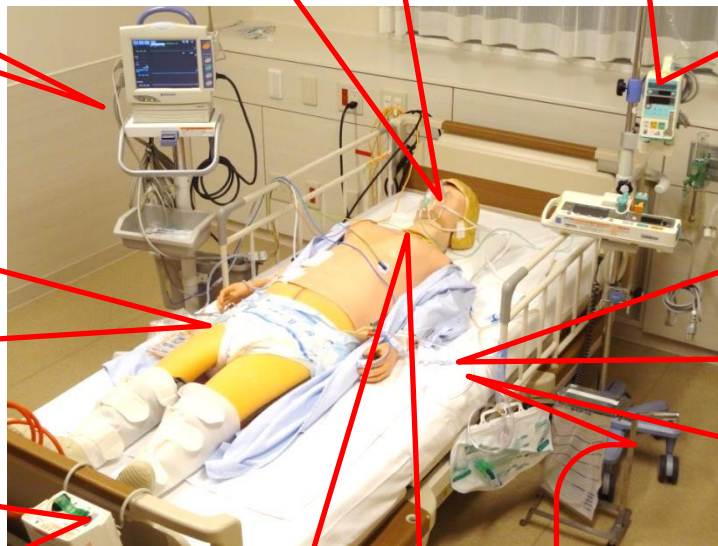
血管内の酸素を十分に確保するためのマスクです。

点滴

血管内に薬剤を持続的に投与する管です。

**バルーン**

排尿するチューブです

**硬膜外麻酔**

手術後の痛みを和らげるために持続して薬剤を投与する管です。

フロートロン

足の静脈内に血栓を起こさないよう圧迫する装置です

胃チューブ

胃の内容物を排出する管です。

ドレーン

体内に溜まった水分や血液、リンパ液などを体外に排出する管です

編集
足利赤十字病院

編集・制作
株式会社ケアコム

All Rights Reserved, copyright©
JAPANESE RED CROSS
ASHIKAGA HOSPITAL
& CARECOM CO.,LTD 2017

F 手術後のご注意 〈患者様、ご家族の皆様へ〉



足利赤十字病院

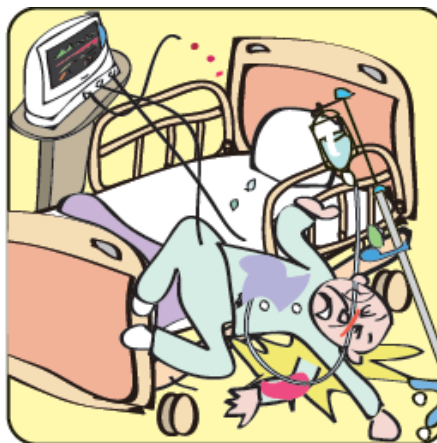
手術後の体は体力・筋力が落ちているので普段できることが、できなくなってしまうことがあります。
無理をして起きたり、歩こうとするとチューブが抜けて重大事故になるので必ず看護師を呼んで下さい。

いろいろな機械が接続されます

例えば



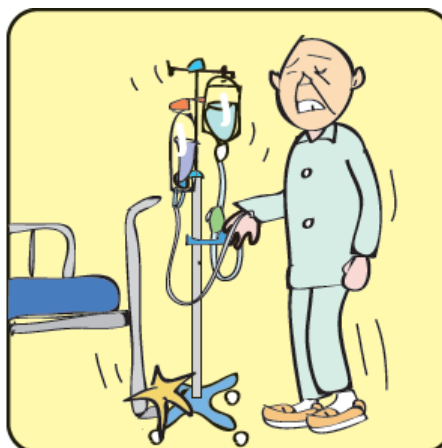
無理してベッドから出れば



こうならないために



歩くのだって大変です



こうなる前に

